

国語 第2学年 自分とくらべて読み、とうじょうじんぶつに手紙を書こう 検討会の想定問答

指摘 1：ねらいが曖昧。気持ちを読み取らせるのか、音読を教えるのか。

返し：ねらいの中心はC(1)エ「場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること」と、C(1)イの内容の大体を捉えること。音読は(1)クとして、想像したことを表す手段と評価の場面の両方に使う。行動と様子の言葉から行動を具体的に想像するのが低学年のねらいで、心情を主題としてまとめることは求めない。

指摘 2：評価規準は何か。

返し：国立教育政策研究所の参考資料の形に合わせた。知識・技能は(1)ク・(1)アの文末を「～している」にした2つ。思考・判断・表現は「読むこと」においてC(1)イ・エを「～している」にした2つ。態度は上の1つ。巻末資料のC読むこと第1学年及び第2学年の言語活動イの例と同じ作り方。

指摘 3：言語活動は何か。

返し：C(2)イ「読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動」。第3次の役割を決めた音読の発表が「演じる」、感想の読み合いが「伝え合う」に当たる。

指摘 4：個に応じた指導はどうするか。

返し：行動と様子で線の色を分け、表の形を単元を通して固定する。一言で止まる子には「どの言葉から？」で文章に戻し、言えない子には2つの言葉から選ばせる。読むのが遅い子は全員音読のあとに作業を始める。学習上の困難がある子には第3の1の(9)の、障害のある児童などの困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫に沿って、場面ごとに区切った拡大プリントや、行動の言葉を先に囲んだプリントを用意する。

指摘 5：ICTは使うのか。

返し：第3の2の(2)の、コンピュータや情報通信ネットワークを活用する機会を設けて指導の効果を高める工夫に沿い、あれば本文を映して線を引く所を全員で見ることと、音読を録音して聞き直すことに使う。無ければ拡大コピーと隣同士の聞き合いで同じようにできる。

指摘 6：教科書どおりでいいのか。

返し：教科書は第3の3の(1)にある資質・能力を養うための教材で、身に付けることはC(1)イ・エと(1)ア・クの側にある。この設計図は指導事項から組んであり、場面の分け方や発問は教科書の手引きに縛られない。ただし本文と台詞は教科書の物を使うので、先生が選んで欄に入れる。

指摘 7：時間が足りない。

返し：光村図書出版の全12時間に合わせた。前半はC(1)イ・エの行動の確認と想像を行い、後半は重点のC(1)オに沿って体験と結び付けた感想を手紙に表す。音読発表だけで単元を終えない。

指摘 8：発問が多い。

返し：本時の発問は「誰が何をして待っているか」「どんなふうに待っているか」「どんな気持ちで、どの言葉からそう思ったか」の3つ。それ以外は確かめの声かけで、問いとして板書しない。気持ちを問う発問は最後に1つだけにし、その前に行動と様子を線で見つける作業を置く。

指摘 9：板書の意図は。

返し：前半と後半の待つ場面を左右に並べた表で、同じ行動（待つ）でも様子の言葉が違うことを目で比べられる形にする。(2)アの情報と情報との関係の理解を、2つの場面の共通と相違で使う。気持ちと根拠の言葉を線でつなぎ、根拠が残る板書にする。

指摘 10：振り返りはどうするのか。

返し：毎時の終わりに、表を見て隣に一文で言うことと、カードに見つけた言葉と想像した気持ちを書くことの2つ。第3の2の(1)アの、日常の言語活動を振り返り、実際に話したり聞いたり書いたり読んだりする場面を意識できるようにする指導に当たる。態度の評価は、この振り返りと第3次の音読の工夫を合わせて見る。

指摘 11：学習指導要領のどこに書いてあるのか。

返し：第1学年及び第2学年〔思考力，判断力，表現力等〕C読むこと(1)イ・エ・オ・カ、(2)イ。〔知識及び技能〕(1)ア・ク、(3)エ。学年の目標(2)と(3)。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

